

2022年のスギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告：常任理事 沖中 芳彦]

前年秋の定点観察木の雄花の着花状態から、今シーズンのスギ花粉捕集総数を、県内測定機関の平均値として、平年値（直近10年間の平均値3,070個/cm²）の約90%の2,700個/cm²程度と予測しましたが、実測値は予測の約70%の1,900個/cm²となりました（図1、2）。

飛散開始日は2月11日（昨年は1月31日）、最多飛散日は全体の平均では3月5日（同2月22日）でいずれも昨シーズンよりも遅くなりました。今シーズンは強烈な寒波の影響で県内の2月の平均気温が昨年より3℃以上低かった（アメダスのデータより）ことなどが主な原因と思われる。

一方ヒノキは、2,070個/cm²（平年値1,510個/cm²の約140%）という捕集総数となりました（図1、3）。飛散開始日は3月10日（昨年は3月2日）、最多飛散日は4月4日（同3月15日）と、同じくいずれも昨シーズンよりも遅くなりました。

図4と図5は、降雪の多い地区の同じヒノキの木の雄花です。図4は今シーズン、図5は2011年（飛散開始日は3月3日）のいずれも3月6日に撮影したものです。寒い地区の木であるが故に、雄花の成熟は比較的遅れますので、この時点では両者ともにまだ花粉を飛散させる状態ではありませんが、2011年のもの（図5）は赤

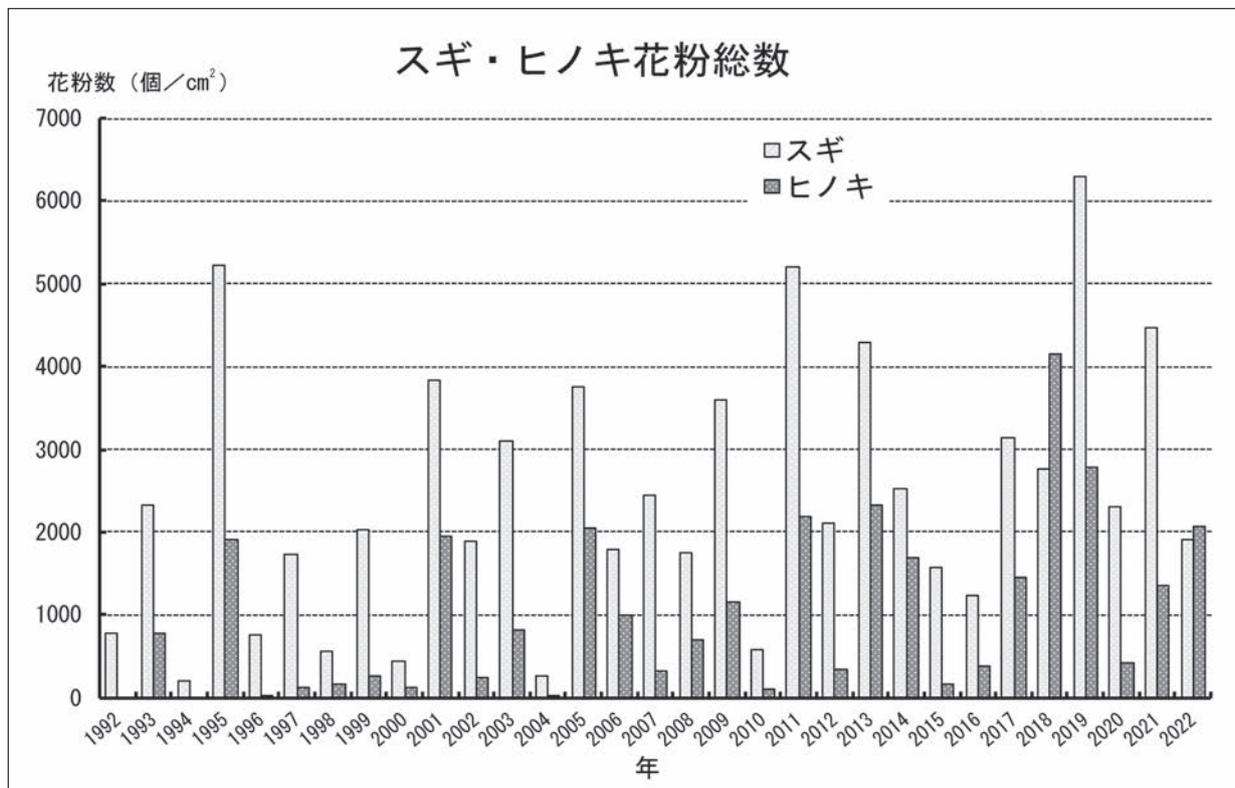


図1 年別スギ・ヒノキ総数

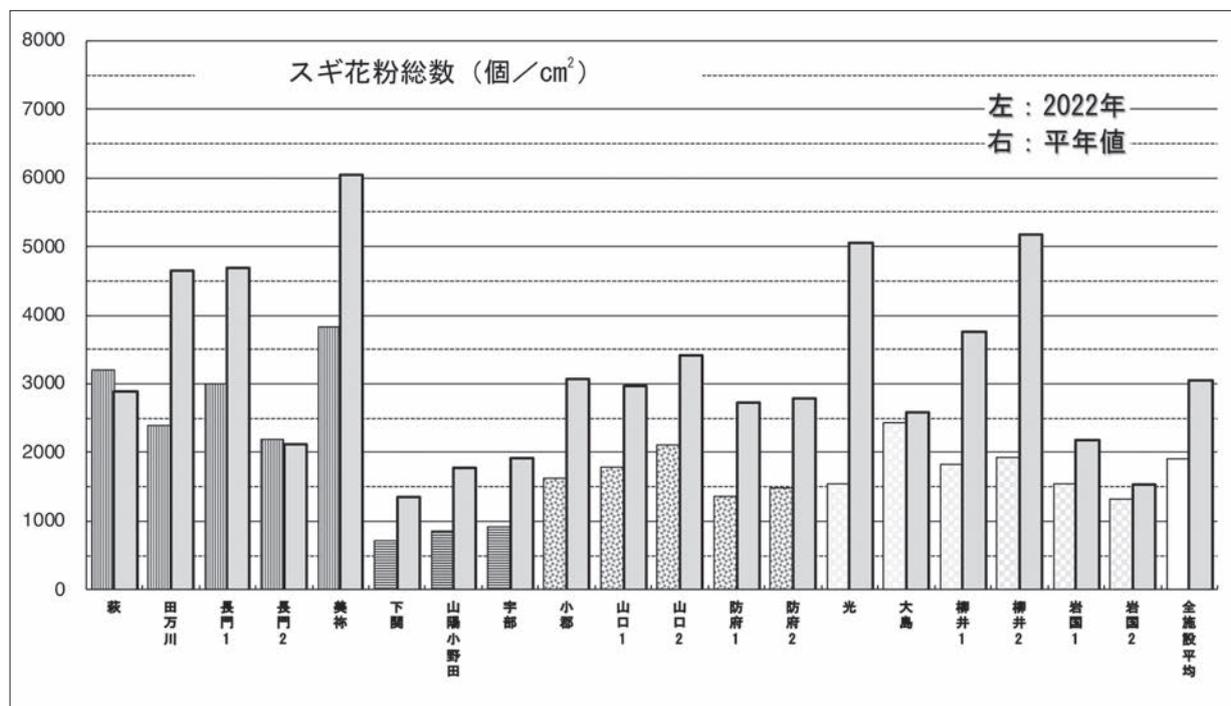


図2 2022年の測定機関別スギ花粉総数 (平年値との比較)

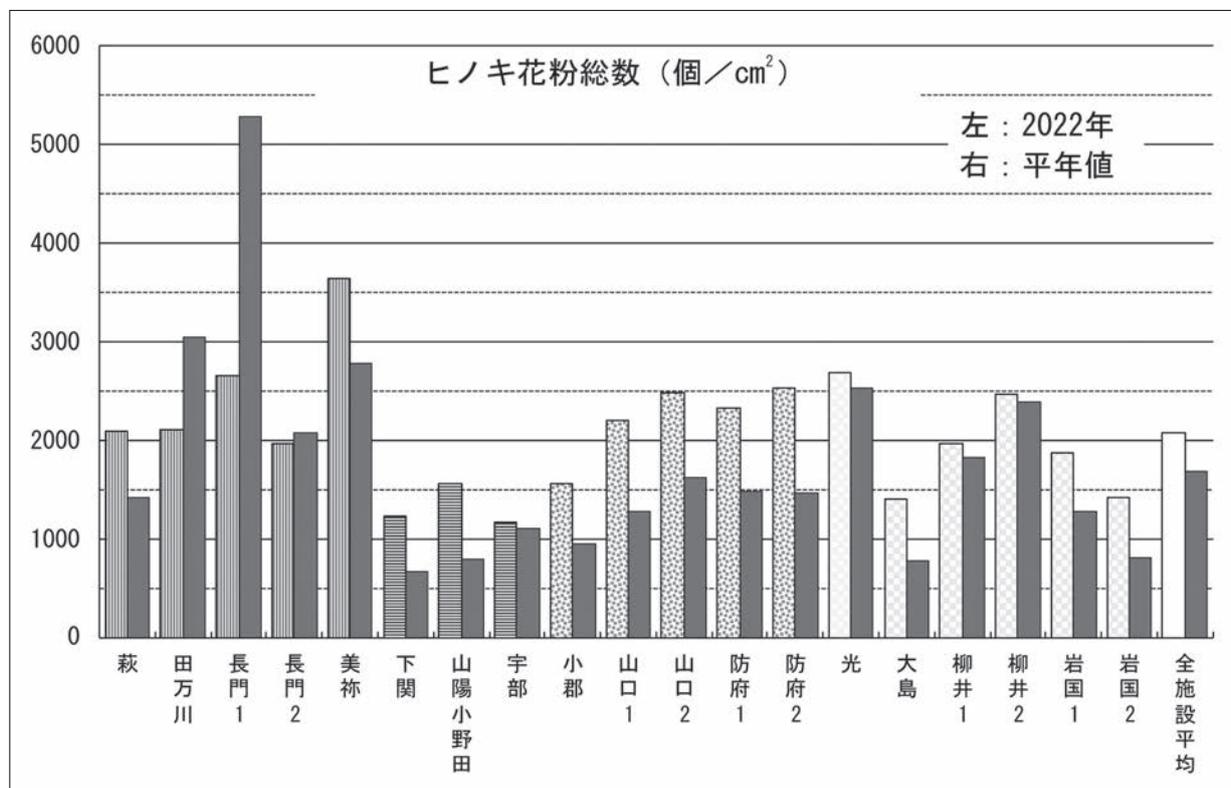


図3 2022年の測定機関別ヒノキ花粉総数 (平年値との比較)

みを帯びてきているのに対し、今シーズンのもの(図4)はやや白っぽく、成熟がより遅れ気味であることがわかります(掲載誌では写真がカラーではないため色の違いが表現できず、申し訳ありません)。

結果的に、今シーズンはスギが平年以下、ヒノキは平年以上の飛散で、今シーズン終了時点での平年値は、スギが3,050個/cm²(図6)、ヒノキは1,685個/cm²となりました。

なお、シーズン中の花粉飛散の予測に関しま

しては、AIによる日々花粉飛散予測の研究を、山口大学医学部システムバイオインフォマティクス講座の浅井義之教授にすすめていただいています。早ければ来シーズンには試行していただけるかもしれません。

また、花粉測定機関の皆様には大変ご多忙の中、日々花粉数測定にご尽力いただき、衷心より感謝申し上げます。引き続きご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



図4 ヒノキの雄花(2022年3月6日撮影)



図5 ヒノキの雄花(2011年3月6日撮影)

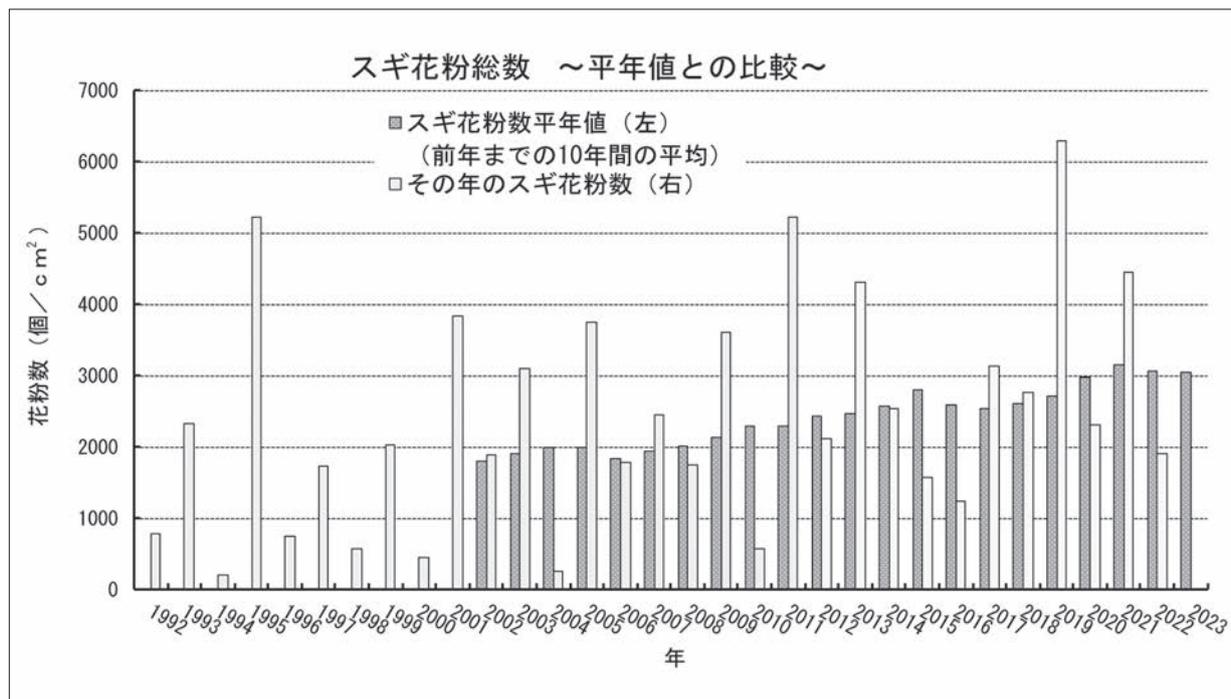
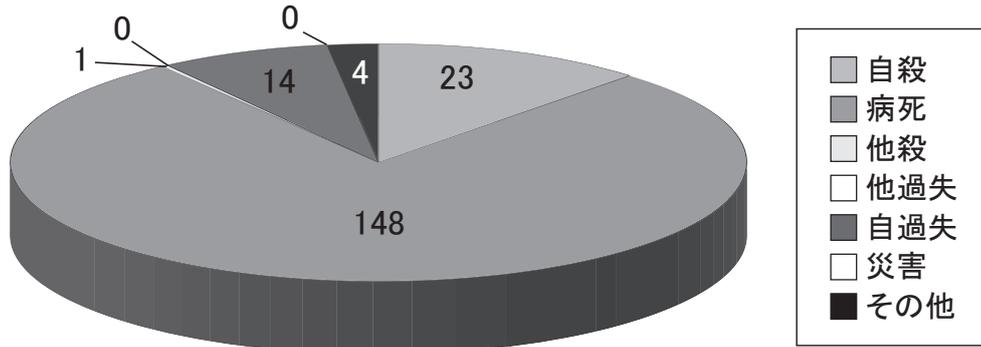


図6 スギ花粉総数と各シーズン前の平年値

死体検案数掲載について

山口県警察管内発生 of 死体検案数								
	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Apr-22	23	148	1	0	14	0	4	190

死体検案数と死亡種別 (令和4年4月分)



ともに、未来をつくる。

地域の豊かな未来を共創する

